「北限のゆず」産地化へフル加速

技術の概要

大苗養成・樹形改善による増収と果実丸ごと利用で「北限のゆず」産地化へ

〇新植苗の早期結実で収量向上

①大苗養成：ポット（25ﾘｯﾄﾙ）の1年間ハウス内養成により樹高約1m確保
②施肥量　：緩効性肥料1ポット10g（窒素成分）で省力化

〇既存樹の低樹高化で収量向上＆省力化

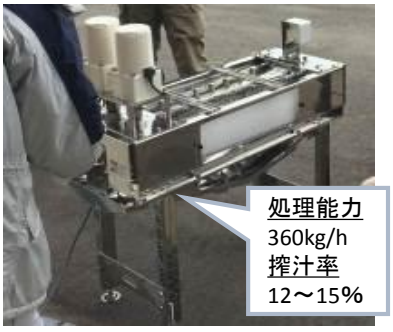
①目標樹高3m～4m実現：既存樹の主幹の切り下げと側枝の間引き剪定により年当たり1m程度段階的に低樹高化

〇果実の丸ごと利用

①搾汁能率向上：自動搾汁機の活用（360kg/h←手搾り10kg/h）
②搾汁残渣利用：新たな搾汁残渣の利用技術開発（果皮エキス）

ポット養成大苗

既存樹のせん定



自動搾汁機SFP-900型
（井河鉄工所製）

ユズ果皮エキス

期待される効果

①新植苗収量約４倍：大苗（4年生）約17kg/10a（←通常苗約4kg/10a）
②既存樹収量約３倍：樹形改善により369kg/樹（←放任樹105kg）
③収穫時間は約７割：10kgあたり収穫時間23分（←放任樹33分）
④新たな加工品開発：ゆず果汁使用ジュース、果皮エキス利用発泡酒等

表　ポット大苗の早期結実効果

試験区	樹齢	平均着果数（果/樹）	10aあたり換算収量（kg）
ポット大苗	4	2.9	17.3
地植え	4	0.5	4.4

表　既存樹の樹形改善効果

試験区	H26-28累積収量（kg）	10kgあたり収穫時間（H26-28平均）
樹形改善	369	23分
無せん定	105	33分

ゆず果汁使用ジュース

果皮エキス利用発泡酒

【お問い合わせ先】
岩手県農業研究センター技術部果樹研究室
〒024-0003　岩手県北上市成田20-1　TEL0197-68-4419

当該技術は農林水産省委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の成果です。